

広報すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 9/15 }  
令和5年(2023年)  
No.2361

仲間と勝ち取った  
世界のでっぺん！

区内を拠点に活動する中学生4人組のダブルダッチチーム「Zenith」<sup>ゼニス</sup>。3月のダブルダッチ日本大会で悲願の優勝を果たし、今夏には日本代表として出場した世界大会でも優勝を飾りました。プレッシャーをどう乗り越えてきたのか、ダブルダッチを続けてきて今何を思うのか。チームの皆さんにお話を伺いました。



特集  
人  
すぎなみピト

ダブルダッチチーム  
ゼニス

Zenith

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



# 好きなことをずっと頑張りが続ければ、きっと納得のいく結果を出せる

## 世界で戦えるチームを目指してZenith結成

### —ダブルダッチを始めたきっかけを教えてください。

峯：7歳のとき、体育で縄跳びがあり、うまくなるためにどこかで習いたいと思い調べていて、行き着いたのがダブルダッチでした。体験してからは、とても楽しくてその魅力にハマっていきました。

高橋：私の地元は元々ダブルダッチが盛んな地域。友達のお姉さんが世界で活躍するレベルで取り組んでいて、「一緒にやらない？」と誘われたことをきっかけに7歳から始めました。

鍵田：最初の出会いは、保育園年長時の運動会でダブルダッチをやったとき。その後、小学校のクラブに2年生で入り、本格的に始めました。

小野：私も（鍵田）朱音ちゃんと同じく小学校のクラブで始めました。軽い気持ちで入ったけれど、やり始めてみると楽しくて夢中になりました。

### —何をきっかけにZenithは結成されたのですか？

小野：全員が違うチームでダブルダッチをしていたのですが、大きな大会で勝つためのチームを作るという目的で、令和3年に結成しました。

高橋：何度かメンバーチェンジを経て、昨夏に私が加入してからはずっとこの4人。ダブルダッチの日本大会「DOUBLE DUTCH CONTEST JAPAN 2023」（以下、日本大会）に向けて、区内の体育館で週2・3日、時間をかけて練習を重ねてきました。



### —練習をしている中で壁にぶつかることもあったのでは？

小野：簡単に勝ち進める大会ではないので、うまくいかないときはとにかく「勝ちたい」という気持ちを強く持って練習に取り組みました。特に、ジュニアパフォーマンス部門は今のメンバーで出られる最後のチャンスだったので、悔いを残したくありませんでした。

峯：同じパフォーマンスを繰り返し練習するから、最初は楽しくても徐々にモチベーションを保つのが難しくなっていくんですね。そんな

ときは、大会で優勝した姿を頭に思い浮かべて、気持ちを立て直しました。

鍵田：手探りの状態でスタートしたので、どうすれば結果につながるパフォーマンスができるのかという不安もありました。目標にあと一歩届かないというときもありましたが、気持ちを落とさないように悔しさをばねにして努力しました。

高橋：私は後からチームに入ったこともあり、最初は打ち解けられなくて悩みました。でもダブルダッチはチームワークが必要不可欠。コミュニケーションを取ろうと心がけました。

鍵田：（高橋）幸愛ちゃんは出会ってすぐはあまりしゃべらなくてどうしようと思ったけど、スピード（通常の3倍の速さで跳ぶ技）をやっている姿を見て驚きました。今ではチームの盛り上げ役です。



## 日本大会優勝で涙。そして世界一へ

### —日本大会で優勝を勝ち取ったときはどんな思いが湧いてきましたか？

高橋：大会のために作り上げたパフォーマンスは「今の私たちのベスト」と胸を張って言える演技だったので、ノミスならきっと優勝できると信じて挑みました。結果発表はもう心臓がバクバクで、優勝が分かった瞬間は、これまでの練習風景やお世話になった方が走馬灯のように頭の中を駆け巡りましたね。

峯：ノミスだったから自信はあったけど、それでも実際に優勝が分かったときは、とてもうれしくて夢なのかもと思いました。

小野：私は演技をやりきった時点でもう涙が出てしまって、ミスできなかったことがうれしかったし、安心した気持ちもありました。

鍵田：ダブルダッチは一発勝負。日本代表をかけた舞台上でプレッシャーも大きかったので、優勝したときはいろんな感情が込み上げてきて本当に泣きました。

### —その後、世界大会でも優勝しましたね。海外での演技はいかがでしたか？

高橋：世界大会は日本代表として恥じないようにという緊張感もあり、

不慣れな場所でベストなパフォーマンスができるかという不安もあったけれど、「ダブルダッチが好きだから自分はここにいる！」という気持ちを強く持って挑みました。

峯：お客さんや他の国のパフォーマーたちがとてもフレンドリーで優しく、安心して演技をすることができました。

鍵田：地元の人がすごく受け入れてもらってくれたのがうれしかったです。小野：優勝が決まったときにいろんな国の人が「良かったよ！」と声をかけてくれたのが印象深かったです。貴重な経験になりました。

## ダブルダッチを通してそれぞれが得てきたもの

### —ダブルダッチの面白さ、ここまで続けてきた理由は何だと思えますか？

鍵田：ダブルダッチの魅力は、いろいろな技があって飽きないところ。チーム内でもそれぞれ得意技が違って、例えば（小野）那都子ちゃんはステップとダンス、（高橋）幸愛ちゃんはスピード、（峯）悠翔くんはアクロバット、私は縄回しなんです。

峯：技が豊富だからいろいろなことに挑戦できて、新しい技ができるようになるとうれしいし、練習をしていると、ふと「楽しい！」と思う瞬間があるんですね。

小野：休みたいなと思ってしばらくダブルダッチをやっていないけど、結局すぐやりたくなってしまいます。

鍵田：私もその気持ちすごく分かります。私は今年受験生なので休もうかなと思ったりもするけれど、ダブルダッチをやっていない自分を想像できません。

高橋：ダブルダッチを通して出会えた人たちもたくさん居て、続けてきて本当に良かったと思います。

### —ダブルダッチを通してどんなことを学びましたか？

峯：受験もあるので、Zenithは一度活動を終えます。でも、これまでダブルダッチに打ち込んできた経験は、これから先、他のことを継続していく力にもつながると思っています。

鍵田：本気でダブルダッチに向き合ったからこそ、何か一つのことについて深く考えたり、仲間と話し合ったりすることができるようになったと実感しています。

高橋：ダブルダッチは、跳びながらいろいろなことを細かく考える、常に頭をフル回転するスポーツです。おかげで私は器用になれたと思っています。コミュニケーション力も鍛えられました。

小野：私はずっと三日坊主タイプだったけれど、ダブルダッチだけは長く続けてこれました。それだけでも自分の自信になっています。



すぎなみビト

ダブルダッチチーム Zenith

プロフィール：左から峯悠翔（みね・ゆうと）中学3年生／高橋幸愛（たかはし・ゆきえ）中学3年生／鍵田朱音（やりた・あかね）中学3年生／小野那都子（おの・なつこ）中学2年生。4人もダブルダッチスクール「Be Color」所属。

### ゼニス Zenithプロフィール

区内を拠点に活動する中学生4人組のダブルダッチチーム。3月に行われたダブルダッチの日本大会「DOUBLE DUTCH CONTEST JAPAN 2023」のジュニアパフォーマンス部門で、ノミスのパフォーマンスを披露し優勝。7月にアメリカで行われた世界大会「DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2023」でも日本代表として優勝を飾る。5月に荻窪で行われた「オギボン祭り」では、演技を披露するとともに、体験コーナーも開催するなど地域でも活動している。

「DOUBLE DUTCH CONTEST WORLD 2023」表彰式

## —同じように今頑張っている同世代へ、メッセージをお願いします！

小野：私たちもそうでしたが、今やっていることでなかなか結果が出なくても、好きであれば離れていくことはないはず。好きだという気持ちを持って続けていけば、きっと結果が出ると思います。

鍵田：何か一つのことを継続してやっていること自体が、すごいことですよね。その中で一度でも自分の納得のいく結果が出せれば、また大きな自信につながると思います。

高橋：楽しいという気持ちを忘れないことが一番大切な。そして、結果が出るときというのは案外突然だったりします。急に目の前にくるチャンスを逃さないためにも、常に全力で向き合っていくのが大事だと思っています。

峯：僕にとってダブルダッチがそうであるように、何かをずっと頑張りが続けた経験は、きっと一生の宝になります。好きなことに打ち込めるって実はすごいこと。今はやってみたいことがない人も、ちょっとしたきっかけで夢中になれることに出会えるかもしれません。いろいろなことにチャレンジするのが大切なかなと思います。



高橋：ちなみに、ダブルダッチは縄跳びが苦手な人でも始められます。私たち4人も元々は縄跳びが苦手でした（笑）。興味がある人は、ぜひ挑戦してみてください！

## ダブルダッチってなに？

ダブルダッチとは、向かい合った2人のターナー（回し手）が2本の縄を回し、その中をジャンパー（跳び手）が華麗に跳ぶ、アメリカ・ニューヨーク発祥のストリートスポーツです。種目は、回数や技によって点数が決まる競技がありますが、音楽に合わせて自由にパフォーマンスを行う「フュージョン」が広く知られています。ダンスやアクロバットなどのスキルだけでなく、衣装やメイク、表情などの表現力でも観客の心を魅了します。



タイミングを見計らいジャンプ！仲間同士で呼吸を合わせることが大切

▲「DOUBLE DUTCH CONTEST JAPAN 2023」でのパフォーマンス

YouTubeで配信中！

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「Zenith」のインタビュー動画を、右2次元コードからご覧いただけます。



杉並区公式チャンネル